

# 腎不全・透析療法シニアレジデントプログラム

## 1. はじめに

当院は日本透析医学会専門医制度教育施設として認定されており、当院もしくは教育関連施設における計5年間の研修により、透析専門医を取得するためのプログラムです。当院は、腎臓内科、腎臓外科、泌尿器科に透析専門医がおることから、これらの診療科で研修を行えることがプログラムの特徴であり、研修期間中に幅広く透析医療の基礎および高度医療を学ぶことができます。また、チーム医療の実践や透析専門医として地域の医療機関と連携を持ちながら質の高い医療を提供する方法について学ぶことにあります。また当院は外科学会認定施設にも選定されており、大学病院との連携も含めて日本外科学会専門医取得も可能です。

## 2. プログラム指導者

安藤 義孝	病院長	日本透析医学会専門医、日本透析医学会指導医
関原 哲夫	副院長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医、日本透析医学会指導医
大竹 伸明	主任医長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会認定医、日本透析医学会指導医
増田 広	医 長	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会専門医
安藤 哲郎	医 長	日本透析医学会専門医、日本外科学会認定医

## 3. 関連施設

5年間の研修期間のうち2年間は東京女子医科大学腎臓病総合医療センターと連携し、大学病院での研修を行う。その他希望があれば関連施設での研修を行っていく方針である。下記以外の研修先での研修も相談に応じる。

- 1) 平成日高クリニック (外来透析ベッド110床)
- 2) 日高リハビリテーション病院 (外来透析ベッド36床)
- 3) 白根クリニック (外来透析ベッド42床)

※ 当院の関連施設である平成日高クリニックは425名、日高リハビリテーション病院は100名、白根クリニックでは120名の外来通院可能な腎不全患者の維持透析を施行している。血液透析のパリエーションとしては、血液濾過、血液濾過透析、選択的 $\beta$ 2ミクログロブリン吸着療法、血漿交換、LCAP、LDL吸着療法を行っている。

#### 4. 研修方法

- 1) 専門医研修期間においては指導医の監督のもとに教育を受けることを原則とします。指導医・専門医を責任者とするチームの一員として、外来診療に従事し、指導医・専門医とともに主治医・担当医となって入院患者の診療にあたります。
- 2) 指導医1名につき研修医1名で研修を行います。
- 3) 下記に研修目標、各年次のプログラム概要を示しますが、プログラムの進捗は理解・到達を確認しながら弾力的に行います。
- 4) 腎疾患・透析療法全般の有効な研修が経験できるよう、関連施設での研修も取り入れます。
- 5) 専門医研修と並行して、学会発表・論文発表の準備、発表の指導、助言を行います。

#### 5. 到達目標

研修の到達目標は、腎疾患・透析療法全般の検査、診断および治療手技の習得です。単独で検査の必要性を判断し、診断、治療法の選択および治療ができることを目標にします。特に透析療法に関しては、また透析用バスキュラーアクセス形成術、バスキュラーアクセスに対する経皮的血管形成術の習熟、そして維持透析の管理、様々な合併症の管理方法の習得を目標とします。また、学会活動に参加し、積極的に症例報告を行い、専門医取得に必要な研究・論文発表を行うことを目標にします。また各種アフエレーシス治療の習熟を目指します。研修後の認定資格として日本透析医学会専門医、希望があれば日本外科学会専門医の取得が可能です。

#### 6. 一般目標

- 腎臓疾患全般の検査、診断、治療法を習得する
- 慢性腎不全患者の治療適応や治療法の選択（血液透析、腹膜透析）、説明と同意に基づく医療の実施について習得する
- 透析療法の治療の実際（腹膜透析、血液透析、内シャント手術、腹膜透析チューブ挿入など）について学ぶ
- 急性腎不全の診断と治療の実際について学ぶ
- 関連施設にて、臓器不全に対しての臓器移植・集学治療について学ぶ

#### 7. 行動目標

- 1) 検査
  - 尿・血液検査、腎機能検査の内容、意味を理解する。
  - 腎生検の適応と手技、病理診断を習得する
  - X線、CT、超音波検査、バスキュラーアクセス造影等の手技、読影、診断を習得する

## 2) 治療手技

- 薬物療法(ステロイド・免疫抑制剤の使用法、降圧剤の使用法など)
- 食事療法(低蛋白食、減塩食、低カリウム食)
- 輸液療法(特に水・Na出納バランス、高カリウム血症)
- 透析療法
  - ・腹膜透析
  - ・血液透析
  - ・ブラッドアクセス形成術
  - ・PTA
  - ・腹膜透析チューブ挿入
- 血漿交換療法、各種アフエーシス療法
- 外科学会認定医に必要な外科手術の経験

## 8. 研修目標－学術研究

各年次における日本透析医学会学術集会での筆頭演者としての発表、また研修期間内での同学会論文発表を目標とする。その他、各学会での発表を積極的に行う。

## 9. 各年次の研修概要

(後期研修5年間:モデルプログラム)

### 1年目

指導医からの指導、補助を受け、以下の研修を行う。

- <外来> 新患の病歴・所見の聴取が行える。必要な検査を行い、検査結果から、診断・治療の必要性・手術適応を判断し患者・家族に説明する。再来患者を担当する。指導医のもとで、ファーストコール、オンコール体制を経験する。
- <病棟> 手術患者の周術期管理、手術患者以外の入院患者管理を行う。カンファレンスで症例報告を行う。
- <手術> 術者として、難易度の低い手術(ブラッドアクセス作成、再建術など)を部分的に行う、または、完遂する。
- <研究> 学会等に積極的に参加する。学会発表、論文発表の準備、または実際に発表する。日本透析医学会、日本外科学会(日本泌尿器学会)への入会登録を行う。

## 2年目

---

基本的には1年目と同じ研修内容となるが、より自立して行うことを目指す。

とくにブラッドアクセスに対しての診察の仕方、手術・PTAなどの治療手技の確立をめざす。

血液透析導入の適応、基準、維持透析の手法について理解を深める。

各種アフレーシスの研修を行う。

## 3年目

---

大各病院での研修を予定している。

東京女子医科大学腎臓病総合医療センター外科では、年間50例を越す腎臓移植と、500例を越すバスキュラーアクセス手術を行っている。日高病院で確立した手技をさらに高めていくこととともに、先端医療を経験し、より多様な腎不全医療へのアプローチを習得することが目的である。

## 4年目

---

さらに大学病院での研修を継続する。入会した学会の専門医取得を目標とし、経験症例を充足させる。

研修先は大学病院を予定しているが、希望があれば提携している民間病院での研修も柔軟に対応する予定である。

## 5年目

---

日高病院にて腎不全・透析専門医として入院患者の検査、治療、および手術の方針を自立して行えることを目標とする。地域に貢献できる専門性の習得を目指す。

学会・論文発表を自立して行えることを目標とする。

また研修終了後に日本透析医学会、日本外科学会の専門医認定を目指す。